

平成 23 年度第 2 回テンミリオンハウス事業採択・評価委員会議事録

- 日 時：平成 23 年 10 月 21 日（金）18：30～21：40
- 場 所：市役所西棟 4 階 412 会議室
- 出席委員：8 名
- 事務局：高齢者支援課、保育課、市民社会福祉協議会

1 開会

2 配付資料確認

事務局より事前配付資料の説明

3 議事

(1) テンミリオンハウス月見路応募団体ヒアリング

【つきみじの会】

(プレゼンテーション)

つきみじの会は「笑いと感動あふれる月見路へ」という言葉を掲げております。これは施設運営の中で常に心の中に留めていることであり、この言葉を一番の柱として仕事をしています。特に高齢者の方は、仕事を離れると社会との接触が少なくなり、そのような中で「笑いと感動」を得られる時間が少なくなってしまうので、月見路で得ていただきたいという思いを持っています。また、施設側のスタッフが「笑いと感動」を与えるのではなく、利用者自身が様々な活動をする過程で、笑いや感動を得ていただきたいと考えています。よって、施設スタッフはそのお手伝いをする役割を担っているという認識をしています。

続いて、つきみじの会の会員構成と組織図について説明させていただきます。会員は、テンミリオンハウス月見路の運営を通じて在宅生活を支援する目的に賛同する個人によって構成されています。運営委員会が役員会として位置づけされており、現時点で理事・監事 9 名で構成されています。運営委員会の選任により顧問を置く予定です。候補者については配布資料に添付しているのでご確認ください。

つきみじの会の特徴について説明いたします。地域団体組織として運営を目

指した理由として、武蔵野市はボランティア活動を中心とした地域福祉力が非常に強いと認識しており、地域住民が運営を担うことによって地域のニーズに早く気が付くことができ、また、そのような中で多様な取り組みを行うことができるため、支援の質も高められると考えているからです。特に運営委員のメンバーは長年地域福祉に関わってきたメンバーが中心となっているため、施設という拠点を軸に「共助」「協働」、具体的に地域の福祉に真剣に貢献していきたいという思いからこの会を発足しました。

月見路の対象者について説明いたします。テンミリオンハウスが始まったきっかけは介護保険制度の開始なので、高齢者を中心とした利用者像を考えていますが、テンミリオンハウス事業も開始から10年経ち、その間社会環境も変化しているので、自然災害や子どもの安全、高齢者・障害者を狙った特殊な悪徳商法等の環境・リスクに対する地域でのトータルケアのマネジメントが必要になってくると考えています。月見路はそのようなリスクの回避を少しでも果たせる可能性があると考え、その入り口として幼児・小中学生や障害をお持ちの方を可能な限り受け入れていきたいと思えます。また、緊急利用としてトイレ利用、緊急避難、健康状態が悪化した方への一時的な休憩場所、防災避難という役割も積極的に地域の中にPRしていきたいと考えています。

運営理念として、まず考えていることは「安らげる居場所づくり」という点です。ここで大切なことは、利用者はお客様ではなく、1人の人間として尊厳が尊重され、利用者・スタッフ、行事やイベントに参加いただけるボランティアの方々が分け隔てない環境の中で、雰囲気づくりができれば良いと考えています。そのような中では、利用者の自己表現が良い形でできるのではないかと思います。

また、「利用者を支え、家族を支える」という点については、軽度ではあっても認知症の方が出てきている中で、そのような方も一緒にプログラムやイベントに参加できるスタッフの気配りやサポートを重視していきたいと考えています。

運営理念の3つ目の「自助」「共助」「協働」について、狭い概念で言えば月見路の中は既にそのような形になっているのではないかと思います。例えば、利用者同士がお互いの困ったことを相談し合うことや、地域の生活課題に気づくこと、ボランティアから様々なサービスの情報を得るなどの情報交換がなされ、その主役になる場面はそれぞれの立場でお互いに重ね合った状態となっているのではないかと思います。

続いて、事業内容について、特徴的な点を説明させていただきます。

基本事業にある「健康維持・向上のプログラム」で特徴的なものは「イージーウォークの設置」です。これは、椅子に座った状態で左右のステップに足を乗せると、ステップが上下にスイングし、足首を伸ばし、ふくらはぎの筋肉が伸縮するという器具で、これは場所もとらないので、健康維持・介護予防に役立てるために設置したいと考えています。

利用時間については、家族の事情等によっては弾力的に延長も行ってきたいと考えています。

最後に、5年間の目標について説明いたしますが、「誰もが立ち寄れる施設の実現」について、様々な行事やイベントについてお子様や男性高齢者も参加できる仕掛けづくりに努めたいと考えています。また、このことによって5年後にはこのような目標を掲げなくとも、自然に実現できている施設になっていて欲しいという願いがあります。

「イベントを通じた地域交流の取組みの定着化」について、イベントを通じた出会いの場・協働の場の創造を図りたいと考え、月見路のイベントが単発で終わってしまうのではなく、地域の中でどのように還元し、波及していくかを一連のプロセスを持った仕組みとして動くような方法も目指したいと考えています。

(質疑応答)

【委員】 単刀直入にお伺いしますが、これまで NPO 法人アビリティーズ協会のメンバーとして、また、月見路の施設長としてやってこられました。何故アビリティーズ協会を退会し、任意団体を起ち上げ、この公募に参加されたのでしょうか。

【つきみじの会】 一番大きな理由として、アビリティーズ協会が運営している月見路の施設長でありながら、関連会社のアビリティーズケアネット（株）の業務も行っていたことにあります。具体的にはお客様相談室の室長を兼ねていました。よって、アビリティーズの事業として行っている福祉用具の販売や施設運営における苦情・相談等の対応を一手に引き受けていた状況であり、この状況を個人的には心苦しく思っておりました。と言いますのも、テンミリオンハウスは武蔵野市の補助事業で武蔵野市の財政で行っている事業なので、自身の給与は武蔵野市の補助金から出されているのが当然なのですが、実際にはアビリティーズケアネット（株）の業務もかなりの比重を占めて行っていると

いう状況だったので、そこに疑問を感じたところが最大の理由です。

【委員】 3点伺います。

- ① 地域団体組織で運営を行うことのメリットについて伺います。
- ② 運営理念の中で「自助」「共助」「協働」にある「共助」と「協働」の違いについて伺います。
- ③ 5年間の目標にある「誰もが立ち寄れる施設の実現」について、誰もが立ち寄れることとなればリスクやセキュリティの問題も出てくると思いますが、そのことに対する現状の考え方についてどのようにお考えでしょうか。

【つきみじの会】 地域団体組織で運営を行うメリットについて、今までアビリティーズ協会という法人格の中で運営を行ってきましたが、法人格の場合、様々な制約があり、実際に行いたいことができないということもあったため、そのようなことが無くなるというメリットがあります。

「誰でも立ち寄れる施設の実現」について、過去の例で言いますと、小さなお子さんを連れて近所を歩いていたお母様が、「子どもの具合が急に悪くなったので、トイレを貸して欲しい」と言ってきたことがありました。トイレ以外で具合の悪い高齢者等が近所で起こることも有り得るので、そのような場合に対応できるような医療器具等も準備して、対応に備えておくことが必要だと考えています。

「共助」と「協働」について、利用者同士の会話の中で得られる情報交換ができていますので、それは身近な「共助」であると認識しています。しかし、「協働」は少し上のランクのものと認識しており、例えばイベントを実施するにあたり、どのような形で進めていくのか、この課題を解決していく力が「協働」ではないかと考えています。

【委員】 法人の考え方と対立があってできないことがあったということですが、具体的にどのようなことだったのか可能な範囲でお教えいただきたいと思えます。

【つきみじの会】 例えば、施設見学の企画を立てた際、アビリティーズ協会へ断りもなく進めてしまったことに注意を受けてしまい、スムーズに進めることができなくなったことがありました。

【委員】 事業提案書にある「団体のアピールポイント」について、武蔵野市内には様々な活動団体が活発に活動しているということが書かれている中で、吉祥寺北町という地域においても福祉に限らず様々な地域団体が活発に活動していると思いますが、その中で月見路がこれからどのような形でそれぞれと関

わっていくのか、また、この豊富な人材をどのように活用していくのか、地域としてのふれあいの方法を具体的に教えていただきたいと思います。

【つきみじの会】 今まで法人が運営していたことから、法人の方針等によって関わることのできなかつた部分もありますが、これからは団体と直接話がスムーズにできる点が最も大きな部分だと思います。例えば近所にある子ども図書館等との協働で高齢者と子どもを繋ぐことや、イベントを実施できるのではないかと考えています。また、日曜日に月見路を利用するなどしてイベントを通じて広げていくことは可能かと考えています。

【委員】 事業提案書にあるスタッフ体制について、週5日常勤1名、非常勤2名の3名体制、週1日非常勤3名の3名体制とされていますが、この「週1日」とはどのような時を想定していますか。

【つきみじの会】 現段階でははっきりしたことが決まっていますが、現在の月見路のプログラムの流れを見ると、水曜日が休みやすいかと思っていますので、水曜日を非常勤3名と考えています。

【委員】 非常勤の給与計算を見ますと880円×4,147時間とされていますが、1日非常勤が入ったと考えても2名分までであり、3名分は足りないのではないかと思います、そこはいかがでしょうか。

【つきみじの会】 全て積算で計算したので、そこに間違いがあればそうかもしれませんが、月単位で計算しているので間違いはないと思います。

【委員】 つきみじの会発起人集会議事録を拝見しますと、月見路の運営を目指して団体を設立された旨が記載されていますが、万が一月見路の運営団体として採択されなかった場合、つきみじの会の存続についてどのようにお考えでしょうか。また、他のメンバーの方はどのような方達なのか教えていただきたいと思います。

【つきみじの会】 月見路の運営団体として採択されなかった場合、会としては消滅することになります。代表、副代表以外のメンバー4名の内、吉祥寺北町の方が3名おり、今まで月見路を中心とした活動の過程で知り合い、今回ご協力をいただいた方達です。

【委員】 例えばボランティア等でこれまで月見路に関わってきた方達もいらっしゃるということでしょうか。

【つきみじの会】 そういう方もおります。

【委員】 つきみじの会代表と理事の方達との関係について教えていただきたいと思います。

【つきみじの会】 理事の方は四小地域福祉の会で月見路の運営委員として在籍している方や、民生委員の方等がおります。今までの月見路運営委員会は施設側が先頭に立って動いていましたが、今後は地域の方達に参加いただき、物事を決めるのはこの運営員会の中で行っていかうと考えております。

【委員】 施設のスタッフとの関係はいかがでしょうか。

【つきみじの会】 運営団体として承認されれば、スタッフも理事として位置づけする予定です。

【委員長】 事業提案書の「5年間の目標」にある「イベントを通じた地域交流の取り組みの定着化」とありますが、その中に「外部施設を利用し、地域交流の具体化を図っていきます」とあります。これはどのようなイメージをお考えでしょうか。

【つきみじの会】 今までイベントは月見路単独で利用者中心に行ってきたという経緯があります。しかし、月見路だけの活動では、他に誰も知ることなく終わってしまいます。よって、今後は地域の方にも参加いただき、楽しんでいただきたいということがまず1つです。

また、大きなイベントを実施する場合、地域の方達にも企画から一緒に入ってください、地域の方達やボランティアの方達でプロジェクト的に動いていきたいと考えています。そこが「協働」ということにも繋がると考えており、新しい地域の方の担い手の輪が広がるのではないかと思います。

【委員】 今までほとんどのテンミリオンハウスにおいて、昼食はその場で調理されていたものを提供していましたが、今回の提案では宅配弁当業者に委託するというお考えのようです。お弁当の味はどんな方にも美味しく感じるよう濃い味付けがされています。実際そのようなお弁当を利用者は好まず、家庭的な味を好む方が多いのではないかと思います。テンミリオンハウス自体、家庭的な雰囲気が求められているのではないかと思います。いかがでしょうか。

【つきみじの会】 昼食をどのようにするかが一番悩んだところですが、最終的には宅配弁当業者に委託することとしました。食の問題は味もそうですが、安全性という面もありますので、そこを見極めなくてはいけないと思っています。また、試食もしましたところ、味は高齢者向けで濃くならないパターンもありました。家庭的な雰囲気についてご指摘がありましたが、現在考えているのはチルドで来たものをレンジで温め、盛り付けは通常通り皿に盛り付けて提供する予定です。

なお、今の理事の方達からは、徐々に手作りの食事を提供するようにしては

うかというご意見もいただいておりますので、そういうことができるようになれば一番良いのではないかと思います。

【委員】 男性利用者を増やすという計画を書かれていますが、その中で「理容の実施」が計画されています。これは具体的に内容が決まっているのでしょうか。

【つきみじの会】 具体的には決めていませんが、300円程度いただこうかと考えています。なお、理容を実施していただく方の候補は具体的に決めていません。男性の方については、何かきっかけを与えるようにしたいと考えています。また、男性利用者に役割を与えるプログラムやご夫婦で参加できるイベント等を考えたいと思います。

【グループ撫子】

(プレゼンテーション)

グループ撫子は、今回月見路の事業提案をするために結成しました。メンバー12名中11名が吉祥寺北町、東町に在住しており、それぞれが高齢者施設での勤務、吉祥寺ナーシングホームでのボランティア、ヘルパーなどの有資格者、地域小学校でのPTA役員経験者、吉祥寺おもちゃ図書館での運営や吉祥寺北コミセン「お話の会さくらんぼ」協力員、武蔵野昔話紙芝居一座団員などの子育て支援、地域に密着した活動をしています。運営理念に掲げました、「手作りであたたかみのある居場所づくり」に賛同した平均年齢45歳、真ん中世代の12名です。

グループ撫子では、地域住民の利点を活かし、地域にお住まいの方々103名にアンケートを取りました。アンケートを取った結果見えてきたものとして、この地域には元気な高齢者、好奇心・向学心旺盛な高齢者が大勢おられるということ、地域で繋がりをもちたい若い子育て世代がいることなどです。

真ん中世代の私達としましては、月見路を地域の居場所として育てることを目標にしております。また、高齢者と子育て世代の交流で共助の精神を育んでいこうと考えております。

参加したいプログラムについてお聞きしたところ、65歳以上の方々から「自分のスキルを活かして地域に貢献したい」というのがありました。これを受けて利用者の皆さんに地域の知恵袋として活躍していただくことも狙いとしています。手芸、歴史教養のお話、朗読など、また、地域の方々の中にはマジック

や囲碁などでボランティアをしても良いとお話ししてくださった方々もいらっ
しゃいました。

グループ撫子が提案する事業内容、3つの柱です。「北町地域の高齢者のネッ
トワーク作り」「異世代交流で将来につながる地域力を育む」「地域への開放」。

玄関から入って左側をメインスペースとし、こちらは食事の提供・各プログ
ラム講座の開催・サークル活動・季節毎のイベント・交流会のスペースとしま
す。また、同じ部屋に事務スペースを配置します。

次に、玄関から入ってすぐのスペースをカフェコーナーとし、プログラムに
参加しない利用者の方や地域の方がふらっと立ち寄っていただけるよう設えま
す。飲み物・手作りのお菓子を100円で提供いたします。また、壁には作品展
示のための棚を設えます。こちらはコミュニケーションスペースとして活用し
ます。

貸しスペースを設け、曜日を決めて貸し出しを行います。テーブルと椅子も
利用できる地域向けレンタルスペースです。

曜日を決めて乳幼児親子に來所いただける乳幼児エリアを設けました。子ど
もが走り出さないよう可動式の台を置きます。こちらはベンチやおむつ替えに
も使用できます。また、カーテンで仕切った授乳スペースも設けます。貸しス
ペースと乳幼児エリアは同じスペースを使用しますが、曜日を設定して棲み分
けを図ります。

シャワーが設置されている場所を効率よく収納スペースとして利用します。

調理スペースとしてランチと喫茶を提供するためにキッチンを利用します。
食卓を共に囲むことで、高齢者を中心とした異世代交流のきっかけをつくら
せたいと思います。

夏祭りやハロウィンイベントでの活用、お天気の良い日は喫茶コーナーを設
けるなどして、駐車場スペースを外エリアとして活用します。移動販売所、朝
市などの開催も考えています。月見路の玄関口、地域への発信エリアと捉えて
います。

グループ撫子では、今回の事業提案の目玉として、手作り昼食の提供を行
います。ひと月分の献立をたて、前日の買い出し、調理時間・予算、月見路の調
理スペースまでを想定しました。他のテンミリオンハウスにもお邪魔して食事
をし、ご苦労されている点、工夫されている点、留意されている点など細かく
下調べを行いました。また、カフェコーナーで提供するお菓子も手作りです。
実際に高齢者施設でお菓子を作っているメンバーの自慢の手作り品となります。

次に、3つの柱について説明いたします。

まず柱の1本目「北町地域の高齢者ネットワーク作り」についてですが、メインスペースで実施するプログラムに参加していただくことで顔見知りになり、親しくなっていただければと考えています。例として、認知症予防ゲームセンターの開設を考えており、文字遊びなど脳医学的見地から有効とされているゲームを行う予定です。小さいお子さんから高齢者まで、ゲーム感覚で楽しんでいただけるものです。この他に、人気のある健康麻雀は引き続き行い、新たに利用者が講師になっての将棋・囲碁・チェスなどを組み込んでいきたいと思っています。

2本目の柱「異世代交流で将来につながる地域力を育む」についてですが、乳幼児親子を受け入れることで異世代交流を図ります。近所には吉祥寺おもちゃ図書館という居場所が既にあり、乳幼児をメインとしておりますが、月見路では地域ニーズに応える形で高齢者と触れ合いたい乳幼児親子に呼びかけをしていきたいと思っております。

3本目の柱「地域への開放」についてですが、利用者同士や撫子メンバーとの交流会としての新年会、利用者とそのご家族など地域向け交流会としてのお披露目会、健康講座、コンサート、朗読会、利用者も含め乳幼児親子など地域全般との交流会と位置付けての夏祭り、ハロウィン、クリスマス会、ひな祭り、朝市の開催や利用者から教わる保存食づくり・着付けなど世代交流講座も予定しています。これらは全て、地域への聞き取り調査からの結果に基づくものです。2年目以降は夜の開設「コミュニティ居酒屋」も視野に入れております。これらは日常生活のアクセントとして、手づくりでぬくもりのある催し物で、交流会として捉えています。

最後に、聞き取り調査からの課題として、月見路の地域への認知度を上げるため、実際に足を運んでいただくために、広報に力を入れます。毎月1度のニュースレター発行、ホームページの開設、半径500m地域へのポスティングを障害者施設と連携して行うことなどを考えています。メンバーの得意分野での力を出しながら、地域からもお手伝いをいただこうと考えています。

グループ撫子は真ん中世代の12名、子育てを経験し介護も視野に入ってきた世代です。個々の得意分野を活かしながら、今後は65歳以上の月見路サポーターを募り、知恵をお借りしながら運営していければと考えています。地域のバトンを繋げる役割を担っていければと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。

(質疑応答)

【委員】 運営体制についてお伺いします。基本的にスタッフは交代制を取られるようですが、全体として利用者は次の日も継続して来られる方もおりますので、前日どのようなことがあったのかなどといった情報をどのように共有して運営していく予定でしょうか。

【グループ撫子】 月曜日から金曜日は4人体制でシフトを組む予定ですが、その内の2人は朝から夕方まで責任を持って入るということで、責任者を2人置くということになります。他の2人の部分は4人で午前と午後で交代する予定です。帳簿の伝達について、毎日最後の時間にミーティングを実施し、次への申し送り事項を記録して残していく予定です。また、1週間に1度責任者全体会議を行います。1ヶ月に1度、スタッフ全員会議を行います。このようにして、利用者の情報を共有しようと考えています。

【委員長】 責任者2人入られますが、その内1人は翌日に入るとのことでしょうか。

【グループ撫子】 翌日、前日の責任者が2人ともいなくなるという場合があります。また、どちらかが翌日入る場合があります。毎日最後のミーティングでしっかりと申し送りができるような体制にしていきたいと思っています。

【委員】 スタッフの勤務体制について、土曜日が2名となっていますが、平日4名のスタッフ体制との違い、また、理由についてお伺いしたいと思います。

【グループ撫子】 今のところ、昼食の提供を月曜日から金曜日までと考えており、平日の4名に対し調理責任者1名が必要ないということになり、また、料理の食卓での提供者が1名必要ないということから、2名体制としています。土曜日については、昼食を全くなしということではなく、おにぎり等の軽食を麻雀等に参加する利用者へ提供することを考えており、それを踏まえても2名で足りると考えています。

【委員】 時給が850円となっていますが、東京都の最低賃金が改定され871円に上がりました(※平成23年10月1日より改正された東京都最低賃金について、正しくは837円でした)。すぐに変更すべきかどうかということについて言及はしませんが、もう少し上げて良いのではないかと思いますがいかがでしょうか。

【グループ撫子】 他のテンミリオンハウスの状況も見て時給を設定しましたが、1年目ということで850円にしています。2年目以降、できれば最低賃金を超えるよう考えていきたいと思っています。

【委員】 提案内容を見て、全体的に様々なことをやり過ぎていて、現在の利用者のことを余り考えていないのではないかと気になったのですが、その辺はいかがでしょうか。

【グループ撫子】 月見路は現在利用されている皆様の居場所なので、もし今回月見路の運営をグループ撫子にお任せいただけるということになりましたら、現運営団体と相談する必要がありますが、ボランティアとしてできるだけ早くお手伝いとして入れていただき、利用者との顔つなぎをして、自分達のことでも覚えていただきたく、また、利用者皆さんのこともお知らせいただけるような形を取りたいと考えています。また、その中で1日の状況や必要とされているプログラムが実際に見えてくると思います。これはあくまでも提案ですが、採択された場合には月見路でお手伝いさせていただく中で、4月からの運営に活かせるよう学んでいきたいと考えています。もちろん現運営団体が許可をいただければという話になりますが、利用者にとって必要とされるプログラムをしっかり把握し、臨機応変に変えて行ければと思います。

【委員】 もし採択されなかった場合、このグループはどのようなようになるのでしょうか。また、利用料を取らずプログラム参加費を利用料収入としていますが、その見込みについて利用者全員がプログラムに参加すると考えているのでしょうか。

【グループ撫子】 もし採択されなかった場合については、提案書類を提出した段階では全く考えていませんでした。採択されなかったことを考えず、前に進んできたという事実があります。しかし、準備を始めて3か月経過した今、地域には様々な人材がいるということが分かりました。最初は5名で始めたこのグループですが、準備の中で賛同していただく方が増えていき、最終的に12名になりました。このメンバー以外にもまだまだ人材がいるということが分かりましたので、万が一採択されなかったとしても、グループ撫子ではまた他の所で何かしらの行動が起こせると実感しています。よって、せっかく集まった12名+ α ですので、ここで解散するのではなく、地域で何かしらの貢献や地域力として活動していきたいと思います。

利用料を徴収しないことについて、現在の月見路は300円の利用料を徴収していますが、単に施設に立ち寄られる方や食事だけという利用の方法をもっと気軽にできるようにしたいという考えから、利用料は0円としています。よってプログラムに参加した方には、プログラム参加費の300円と材料費を徴収することとしました。収入見込みについては、現在の月見路の実績報告を参考に、

プログラム参加者の人数を割り出しました。

【委員】 3点お伺いします。

- ① イベント内容について、ハロウィンや北欧のクリスマス会など高齢者の利用者には向かない内容ではないかと思いますが、どのようにお考えでしょうか。
- ② 四小地区福祉の会と月に1度情報交換会を行うとされていますが、スタッフの中には四小地区福祉の会に入っている方はいらっしゃるのでしょうか。
- ③ 乳幼児親子の受入れを指定された曜日の10時から16時という1日の大半行うと計画されていますが、近所には子どもテンミリオンハウスあおぼがありますので、そのような施設との兼ね合いについて、どのようにお考えでしょうか。

【グループ撫子】 イベントについて、認知症サポーター講習会や健康講座は対象が分かりやすいものと思いますが、北コミさわやか祭りや文化祭、夏祭りやふれあいコンサート等は現在の月見路のイベントをそのまま継承している形となります。新しいものについてはお披露目会やご質問のありましたハロウィンや北欧のクリスマス会がありますが、ハロウィンや北欧のクリスマス会については、聞き取り調査を行った結果から北町や東町の高齢者の方はこのような行事を抵抗感なく受け入れていただけると実感しました。地域の方と子育て世代のお母様を繋ぐということを計画して取り入れました。

乳幼児親子の受入について、子どもテンミリオンハウスあおぼはお子さんだけの施設であり、高齢者の方はおそらく入っていないのではないかと思います。グループ撫子は月見路の一部を利用して高齢者と子育て世代の交流を考えていますので、その辺りの棲み分けはできると考えています。子育て世代の方も核家族やご夫婦とお子さんだけで暮らしている方が多く、実際にお話を聞きますと、子育てについて伺いたいことがあることや高齢者の方もお子さんを見て癒される部分があると伺いましたので、気持ちとしては毎日交流することを考えていましたが、高齢者の中にはお子さんを見て「騒がしい」と感じてしまう方もいると思いますので、曜日によって明確にして、お子様が苦手な方にはそれ以外の日に来ていただき、交流をしたいという方にはその日に来ていただくという形にしたいと思います。

四小地区福祉の会について、実際にメンバーの中に運営委員として名前が入っている者がおります。四小地区福祉の会でポスティングのお手伝いをさせていただくことや、福祉の会の運営委員会で開催している講習会に参加しています。今回この提案をする際、四小地区福祉の会の会長へご挨拶に伺い、採択さ

れた場合は今まで通り月 1 回の情報交換会をお願いしますとご挨拶させていただきました。

【委員長】 乳幼児親子の受入について、乳幼児親子向けのプログラムを実施することなどをお考えなのでしょうか。

【グループ撫子】 乳幼児親子を受け入れる曜日全てでプログラムを実施することは考えていませんが、要所で季節感のあるプログラムを考え、高齢者の方も参加できるものを実施したいと考えています。わらべ歌の先生に来ていただくことや、お話をすること、高齢者の方と一緒に食事をする会などで緩やかに交流できるプログラムを考えたいと思います。

【委員】 1 日平均 15 人の利用者を想定していますが、乳幼児親子の受入を実施しますと、15 人を超えてくる日も十分にあるのではないかと思います。10 時から 16 時の時間帯で乳幼児親子を受け入れることになると、メインをどちらにするのかという問題もありますが、現場スタッフが苦勞することになるのではないかと思います。このことについてはいかがでしょうか。

【グループ撫子】 平成 22 年度の月見路の実績報告を見ますと、1 日の平均利用人数が 15 名弱だったため、そこをベースに考えています。部屋の広さを見てもメインの部屋で 15 名の方がお食事やプログラムをすることができるのではないかと思います。また、もう 1 つの部屋は比較的余裕があり、現在の月見路はそのスペースを貸し出している状況にあります。貸し出す一方で、その部屋があまり利用されていないという実情もあります。お部屋が足りないことやオーバーフローをすることはないと、現在の状況から考えました。また、今後高齢者の利用が増えた場合、カフェコーナーを設けていますので、そこでお茶を飲むことや談笑ができるようにし、スペースは現在よりも広く取れると考えていますので、人数が増えても対応できると考えています。

【委員】 そのような状況ですと、4 人体制のスタッフでは厳しいのではないかと思います。いかがでしょうか。

【グループ撫子】 現在の月見路は 3 人体制で行っており、乳幼児親子を受け入れる関係で私達は 4 名に増員しています。やはり危険があつてはいけないということ、また、お食事を提供するというので増員しています。

【委員】 食事について 1 日 10 食程度を考えていらっしゃるようですが、1 人で 10 食作るの恐らくほぼ調理にかかり切りになると思いますので、実質的にはスタッフ 3 名で対応するということですが、そこは大丈夫でしょうか。

【グループ撫子】 お食事を作る場合、時間的に 1 番忙しいときは 2 人体制で

調理し、作り終わった後の調理担当者は高齢者のお食事の見守りをするなどして、調理スタッフとフロアスタッフの両方兼務できる形を取る予定です。よって、フロア担当は3名になると思います。あまり見守りが必要ないプログラム、特に午前中について、スタッフは2人厨房に入るよう時間配分を考えています。

【委員】 2点伺います。

- ① 今回事業提案をされるにあたり、地域の方へ調査を行った中で既に出ていることと思いますが、男性高齢者の利用できる体制をどのように行おうと考えているのでしょうか。
- ② 認知度や利用促進については、ご提案の通り広報の充実が必要だと思いますが、ニュースレターやホームページの開設等を実施する中で具体的にどのような情報を発信したいと考えているのでしょうか。

【グループ撫子】 男性高齢者の参加について、ご指摘いただきました通り現在は男性の利用者が少ないと感じています。他のテンミリオンハウスを見学しましたところ、男性の方はご夫婦でいらっしゃっている方が比較的多いと実感しました。よって、奥様にまず来ていただくことが重要ではないかと考えています。女性は食事やプログラムに魅力を感じると思い、食事の際にご夫婦で来ていただくことも考え、手づくり昼食の提供を考えました。また、見学の際男性のテーブルと女性のテーブルに自然と分かれているのを見ましたので、そのような中で男性が来所した際、男性の中で話ができるのではないかと考えました。更に、お声掛けの1つとして「囲碁を教えてください」「将棋を教えてください」という形で来ていただき、その中で自然と輪が広がって行けば良いと考えています。

ホームページ等による広報について、現在の月見路では年3回ニュースレターを発行されていますが、聞き取り調査の中で出たものとして「プログラムが先生の都合で曜日が急に変更していることがあり、いざ行ってみたら先生不在でプログラムを受けられなかった」ということがあったようでしたので、ホームページではプログラムの予定をハッキリ打ち出し、変更があった場合は前もってお知らせできるようにしたいと思います。ホームページを見ることができない環境にない方もいらっしゃいますので、そのような方へはペーパーで補っていくことを考えています。また、お食事を提供するので、ひと月ごとの献立もホームページとニュースレターに載せてお知らせしたいと思います。更に、グループ撫子の中での「一言コラム」やイベント情報の発信を行っていきたいと思います。

【委員】 確かにご夫婦で高齢者ということでしたら、男性の方が来ることもあるかと思いますが、一番地域の中で課題となっているのは単身の高齢者だと思いますので、単身高齢者へどのような形でアプローチしていくのか、お考えがあれば教えてください。

【グループ撫子】 2年目以降の取組みになりますが、コミュニティ居酒屋というものを考えており、夜の開設を考えています。こちらの方に男性の方が来ていただければと思います。実際に聞き取りの中では、月見路はちょうど吉祥寺からの帰り道となるので、この辺りでふらっと立ち寄れる居酒屋があればいかがですかと伺ったところ「ちょっと寄ってみたい」言ってくださった男性の方がおりましたので、ロコミなどで広がって行き、そこで男性の方が来てお酒を飲みながらお話しできる場ができればと考えています。通常のプログラム等の運営が安定してくる2年目以降に是非実施したいと思います。

【特定非営利活動法人日本アビリティーズ協会（以下、アビリティーズ）
（プレゼンテーション）

はじめに、当法人の説明をさせていただきたいと思います。

「わたしは平凡な人間でありたくない。非凡な人間としてできれば“保障”よりも“チャンス”を選ぶこと・・・これこそわたしの願いである。」これはアビリティーズの綱領ですが、当協会は今の綱領を宣言して昭和41年に設立されました。アビリティーズ協会の会長は、高校卒業後に就職活動をしたところ多くの企業から「障害者は採用しない」と言われ、会社を受けられなかったということがありました。そのことから、片足の悪い人間がこのような差別を受けるのであれば、車椅子に乗った方や障害の重い方はもっと大変だろうと思い、障害者や高齢者が社会に出られるように活動しようということで起こした団体です。今は、多くの企業と連携しながら様々な事業を行なっています。

今回の事業提案を行うに当たって、この理念を活かしながら進んでいきたいと考えており、高齢者の社会参加を一番に行いたいと考えています。利用者と地域住民、そしてサービスを提供する側が一緒になってテンミリオンハウスを運営していくことが鍵になると思います。特に、利用者の皆さんは新しいことにチャレンジしたい、ご飯を作るのに疲れた、掃除が大変、一人でいるのが寂しい、話し相手が欲しいということで、利用される方が当然多いと思います。そのような方々にテンミリオンハウスは様々な生活プログラムを提供して生き

がいのある生活をつくるのではないかと思います。

これまでの活動実績を申し上げますと、一日の平均利用は 13.3 名、ボランティアの数は年間で 566 名、利用者は 137 名の方が登録しています。通常は絵手紙や書道といったレクリエーションをはじめ、地域交流でバーベキュー大会を実施することや、バス旅行、朝市、花市、市民講座といった事業を継続して行っています。また、年に 1 度の文化祭、これは利用者が一番楽しみにしている内容となっております。

これから行うことについて、まず地域別割合で見ますと、本町の方の利用が少ないと思いますので、本町の利用者率を伸ばしていきたいと考えています。また、延べ利用者数で見ますと、1 日平均利用者数を現在の 13 名から 15 名に伸ばしていきたいと考えています。大変な部分だと思いますが、認知度を上げながら 1 日平均利用者数を 15 名に伸ばしたいと思います。一番の課題として、男性の利用者が比較的少ないことが挙げられます。現在 17.9% の利用率ですが、これを 20% に上げたいと考えています。男性の方にはなかなか利用してもらえませんが、男性の方が利用できるようなプログラムを増やしていきたいと考えています。

事業の基本は 4 つ、毎日行っているミニデイサービス事業、昼食の提供、地域住民のための会合場所の提供、同じ運営をするのであれば地域住民の方々と話し合いながらコミュニケーションをとって行いたいということで月見路運営委員会の開催、この 4 つを考えています。

アビリティーズ協会が一番考えていることは何かと言うと、尊厳性やプライドを持って生活できるようなことを考えており、自己判断できる環境づくりが一番大事なことだと思います。また、従来の生活スタイルを持続できることが大切ではないかと思います。

二番目として、健康を守ってそれを維持するための様々なプログラムを用意したいということです。一つは健康面、二つ目は防災面、三つ目は食事面。この 3 つを上手く使うことによって、高齢者の健康を守れるものと考えております。特に今回震災がありましたので、事前の準備をここでやっていきたいと考えています。

具体的にどのようなことを行うかと言いますと、武蔵野市健康づくり支援センターによる出張講座にて様々なことをお願いしております。このようなことを啓蒙活動として、できるだけやっていきたいと思っています。健康相談だけではなく、オレオレ詐欺のような犯罪に対しての啓蒙活動も行っていきたいと

思います。

健康講座の開催について、季節の変わり目になると高齢者の方は色々な疾病を持っていますので、心配事があれば直接看護師に相談ができる場の提供をしていきたいと思っています。また、専門医による疾病に関する講習を行っていきたくて考えています。お医者様に来ていただくことは非常に有難い話ですが、ここで一番肝心なことは地域の専門医に来ていただくことです。基本は地元の専門医に来ていただいて、そこで相談をする、またはお話しをすることで顔がつながるので、その医療機関に行ったときにすぐ相談ができることになります。一番大事なことは、地元の専門医に来ていただくことです。これは新たな事業として年に4回実施する予定です。

利用者に対する防災福祉用具を使用した防災対策と訓練の実施について、これも新規事業ですが、今回の東日本大震災を見て分かるように、震災が起こった後の避難所での生活は、高齢者や障害者にとって非常に酷でありました。これは実際にそういうことに遭ってからでは遅いため、福祉的要素で使えるようなものを含め、事前に訓練を受けながら、また地域の方々と備品も含めてどういう割合でどんな風に行えば良いのか、避難活動はどうするのかということを経験の方々と連携をとって行っていきたくて思います。

三番目は、生きがいを持ってもらうことです。日々予定を持って生活することや地域との交流、外出プログラム、趣味・レクリエーションといったものについて段階を踏みながら進めていくことで、積極的で前向きな生活ができると思っています。

生きがいプログラムとは具体的にどういうことかと言いますと、パソコンや携帯電話教室の実施を考えています。特にパソコンについては「パソコンは知っているけれど何ができるか分からない」、携帯電話については「持ってみたい、または持っているけど操作ができない」「孫からメールが来たけれど、写真の送り方が分からない」このようなことがあると思います。このようなことに対し、まず目標を作ってもらふこと、例えばまずメールを開くことができるようになる、パソコンで写真集を作ってみるなどといった目標を作りながら、年6回程度新規事業として実施を考えています。

(質疑応答)

【委員】 現運営団体として一般的なお話をいただいた中で、我々としてお伺いしたいことは、これまでの努力された実績を踏まえて、月見路を知っている

けれど寄ったことがないという方等が未だ多くテンミリオンハウスに共通しており、そのことをどのように捉えているかということです。また、今の課題をどう捉えているのか、5年間の計画を出していただきましたがそれをどのように行っていきたいのか、新規事業を色々と考えていらっしゃるようですが、地域の生活拠点として何をしようとしたのか、その辺りについてもう少しご説明いただきたいと思います。

【アビリティーズ】 まず利用についてですが、利用者が増えない部分についてこの5年間を見ましても中々増えなかったのですが、22年度は少し増え、その大きな理由としてはカルチャータ的なものを実施したことや、朝市の実施によって高齢者に特定するのではなく地域の方が一緒に参加できるようなプログラムを用意したことではないかと考えています。また、この部分をやらなくてはいけないと考えています。

今後どのような展開をしていくかということについて、高齢者という部分だけに頼らず、市民の方がもう少し気楽に参加できるような催しを行っていききたいと思います。例えば、花市や園芸教室の実施を考えており、このような内容であれば、市民の方も参加しやすいのではないかと思います。

私共が一番行いたいものは何かと言うと、高齢になって地元に住めなくなってしまうという方が出てくるので、できるだけそのような方でも月見路に来ていただく、また、見守りを行っていきながら、できるだけ今のお住まいに住んでいただけるよう取り組んでいきたいと思っています。

【委員】 3点お伺いします。

- ① 利用者の地域別割合の目標について、本町在住者の割合アップを目標とされていますが、本町と東町は交通量が多い通りを横断しなくてはいけないということがあり、数年前に月見路でこのことについて伺ったこともあったのですが、やはりそこがネックになっているということでした。月見路側も無理に危険を冒してまで通わせたいということはないようでした。東町もそうです。中町についてはテンミリオンハウスくるみの木が開設された経緯があります。よって、ここをアップすることは非常に難しいと感じます。北町は北へもかなり広くありますので、地元の北町を中心に計画を立てた方が良いのではないかと思います。
- ② 男性利用者の利用率アップとありますが、具体的にどのような形で利用率20%へアップするのでしょうか。
- ③ 乳幼児親子の受入については「実施しない」と提案書にハッキリ書かれて

いますが、これは何か理由があってこのように書かれているのでしょうか。

【アビリティーズ】 計画の見直しについて、ご指摘の通りだと思いますが、テンミリオンハウスが新しく開設されることにより、月見路におけるその地域の方々の利用率が落ちていくこととなります。その中でどうしても新しい利用者を獲得したいという気持ちがあり、この計画を作りました。計画の見直しについてご指摘を受けたところにつきましては、再度検証してみたいと思います。

男性利用者について、1つのキーワードとしてリハビリ、または健康体操ということで、リハビリに特化することが必要かと考えています。リハビリをするということであれば、男性の方もその時間帯を楽しみに来られるのではないかと思います。2つめは、新規事業として日帰り旅行を考えています。ニーズ調査と称してバス旅行をやっておりましたが、非常に反応が良く、すぐに定員に達しました。これを年に6回程度実施し、男性だけでなく女性やご家族等が参加できるようにしていきたいと思います。

乳幼児の受入について、実施しないということを今は書かざるを得なかったということがあります。場所が狭い問題があり、乳幼児を受け入れるためには専門職がいなくてはならないということもあります。全く受け入れないということを考えているわけではなく、高齢者の方は子どもが大好きで、子ども達が来られると非常に喜びますので、徐々に来ていただき様子を見ながら受け入れることができる体制をつくり、1年後、2年後には受け入れられるようにしたいという希望はあります。今は受け入れられる環境が整っていないということです。

【委員】 2点お伺いします。

- ① 施設長と副施設長について、月見路にはどのくらいの期間勤務されているのでしょうか。
- ② 非常勤職員の時給について、東京都の最低賃金871円に上がったのですが、提案いただいた中では850円になっています（※平成23年10月1日より改正された東京都最低賃金について、正しくは837円でした）。この辺りの考え方についてお伺いしたいと思います。

【アビリティーズ】 賃金につきましては、現在給与改定を行っておりますので、今現在の給与で計算しておりますが、既にアップする予定であります。

勤務年数について、施設長はアビリティーズに勤めて、この11月で41年になります。管理本部、人事、施設の相談、月見路にも何度か来たこともあり、様々な業務を行ってきました。4、5年前からは協会の事務局長を行っており、

月見路のことや在宅介護支援センターのことは把握しております。これからどのように運営していくかということについて、利用者とも話をしております。

副施設長は、アビリティーズに勤めて4年と3か月になります。月見路に来たのは3年半前になります。月見路に常勤として勤務しているのは、施設長と副施設長の2人になります。

【委員】 今回の提案をご説明いただいたのは事務局長の方でしたが、地域密着型ということで考えれば、地域への即応性が必要になる場合もありますが、その辺りについて舵取りをしている状況なのか、出先機関という考えがあり、履行についてはある程度本部の意向が反映されない限りは動けないのでしょうか。施設長による事業説明であれば安心感が与えられたのですが、現場と運営側が切り離されたような印象を受けました。その辺りについてはいかがでしょうか。

【アビリティーズ】 全く切り離しているという意識はありません。現場が一番大切なので、現場で起こることは即対応しております。NPO法人の一環ではありますが、テンミリオンハウスは市からの委託を受けている一つの施設ですし、また、アビリティーズの綱領とテンミリオンハウスの理念は同じものと考えております。テンミリオンハウスは、皆様が地域の中で長く暮らしていけるよういかにフォローしていくかということと伺っておりましたので、それはアビリティーズが望んでいることでもあります。よって、かけ離れているとは思っておりません。

【委員】 現場で対応を図る事柄の中には、承認を受けるような形態もあるのでしょうか。

【アビリティーズ】 日常的なことで伺うことはありませんが、報告はします。施設長の判断で行っておりますし、それだけ責任を持って行うのが施設長だと思っております。

【委員】 先ほどの話の中で、市から委託を受けているとありましたが、これは委託事業ではありませんのでご確認ください。

【アビリティーズ】 申し訳ありません。補助事業ですね。

【委員】 新しいプログラムについて、今までも毎年新しい事業をご提案いただいたのですが、先ほどから利用者を増やすという話がある中で、新しいプログラムを行えば、単純に利用者が増えるのかという疑問を持ちますがいかがでしょうか。また、平成23年度の事業計画と今回の提案書を比較させていただいた中で、人件費が100万円近く増えています。このことについてお伺いした

いと思います。

【アビリティーズ】 新しい事業を行うには、利用者のニーズを聞いて行っていきたくて思っております。外出プログラムの提案もしましたが、このことについても利用者に意見を伺ったところ、「それは良いですね。是非やってください。」ということで、皆さん外に出ることを望んでいるため実施したいと考えました。パソコン・携帯電話教室に関しましても、望んでいらっしゃる状況でした。突然階段から落ちることや、お風呂場で転んで動けなくなることがあるため、その時どのように月見路が発見し連絡できるかという見守り支援についても考えてきましたが、これも利用者が望んだことです。よって、新規事業によって人が増えるかどうかということではなく、利用者が望んでいることと運営側が行おうとすることが一致している状況だと考えています。新規事業を利用者がやりたくないと言うのであれば、それは実施しないようにしたいと思います。利用者が健康で、長くお元気で月見路に通って来られるにはどうすれば良いかということを考えながら実施していきたいと思っております。

人件費についてですが、法定福利費が増えたことと保健師に毎週来ていただく分について、今まで人件費に含めていなかったものを人件費に含めたという点があります。また、スタッフの人数が増えたということもあります。毎日の体制をしっかりとするために、非常勤職員を増員しています。

【委員】 スタッフについて、福祉医療相談員の方はご高齢のようですが、東久留米市から通われるのは大変ではないかと思っております。いかがでしょうか。

【アビリティーズ】 とても元気な方なので大丈夫だと思います。

【委員】 2点伺います。

- ① 多様な新規事業をお考えの中で、従来のプログラム等でお止めになるプログラム等はあるのでしょうか。
- ② 多様なプログラムを実施する中で、スタッフの負担もかかるのではないかと思います。ニーズがあるから事業化していくということだけではなく、日常的なやり取りの中でサポートしていくということも考えとしてはあるのではないかと思いますので、その辺りの考え方をお聞かせください。

【アビリティーズ】 今までのプログラムを止める予定はなく、今までのプログラムに少しずつ新しいことを加えていきたいと思っております。例えば、予定していたことができなくなることや、ボランティア講師の都合により行えなくなった場合などに新しいことを加えていきたいと思っております。11月から早速携帯電話の教室プログラムを実施する予定です。携帯電話につきましては、スタッフの

中に詳しい者がおりますので、それで十分に対応できると思います。

【委員】 このように事業が増えていくと、当然旧来やってきたところが今までのやり方ではできなくなるのではないかと思います、その辺りは全体的に問題ないとお考えでしょうか。

【アビリティーズ】 スタッフが効率的に動かなくてはならないと思います。事務も手計算による集計で行っている部分がありますので、そのようなことに時間を取られないよう新たなシステムを構築する必要があると思います。このことについては専門家がおりますので、相談して実施したいと思いますが、事務の効率化や日常の中で利用者の方を向いて動けるように効率化を図りたいと思います。よって、特に問題はないと思います。

【委員長】 事業提案書にあります「在宅状況確認・リモートライフセキュリティシステムの提供」の中に、10月より実験開始とありますが、これは実際に行っているのでしょうか。

【アビリティーズ】 実施しております。武蔵野市だけではなく、広域的に実施しており、今日現在で稼働しているのは60ケースほどあります。

【委員長】 月見路利用者の家庭は何件くらいあるのでしょうか。

【アビリティーズ】 テンミリオンハウスの利用者へは説明をした段階で、現在の設置者はおりません。

（２） 推薦団体決定討議

【委員長】 各委員に採点いただきました集計結果が届きました。集計結果として、つきみじの会 799点、グループ撫子 799点、特定非営利活動法人日本アビリティーズ協会が 750点となりました。この結果を踏まえ、委員会として優先順位を決定したいと思いますので、各委員より意見をお願いします。

【委員】 つきみじの会とグループ撫子が同点ですが、この2団体で言えばグループ撫子を優先順位1位にしたいと思います。と言いますのも、どちらもこの月見路を運営するために発足した会ですが、たとえ採択されなかったとしてもグループ撫子は別の場所で何らかの活動を続けたいということでしたので、この活動に対する「本気度」がより見えたということに対し、つきみじの会は中途半端だったと感じたところにあります。また、つきみじの会は現運営団体との関係が不透明な部分もあり、疑問が残ります。グループ撫子はテンミリオンハウスの運営団体の中ではやや若手の団体なので、新しい部分があり、企画

力もあるため今後に期待できると感じました。

【委員】 私もグループ撫子が優先順位 1 位という意見に賛同します。グループ撫子は現運営団体のアビリティーズ協会と比べるとかなりの素人集団ということになりますが、素人であるが故の「勢い」を感じます。部屋の使い方も強引と感じる部分もありますが、そのような面も含め魅力があります。現運営団体が行ってきたことではないことをできる可能性があると思います。

つきみじの会につきましては、事業の安定性を感じましたが、現運営団体との関係について疑問が残ると同時に、施設の代表者が変わらないということであれば、基本的な内容は変わらないのではないかと感じました。そういった面から見ますと、グループ撫子に期待したいと思います。

気になる点として、グループ撫子が男性利用者への取組みについてどこまでカバーできるかという点があります。

【委員】 私もグループ撫子を優先順位 1 位の団体と見ています。理由として、地域での共助という思想で進んでいるテンミリオンハウスについて、その地域密着型の運営が期待されることや、昼食が手づくりという点が家庭的で温かいサービスが提供できるのではないかと感じたことです。また、メンバーも 40 代～50 代という真ん中世代のため、面白い取組みができるのではないかと期待できます。

【委員】 つきみじの会とグループ撫子で考えますと、若い世代でメンバー構成されているグループ撫子の方が、将来性も期待できると感じました。

【委員】 点数を見る限り、「地域福祉への貢献度」への評価が最も高いのはグループ撫子です。地域のアンケート調査を実施していることから、企画の面で反映されていくのではないかと期待が持てます。

【委員】 つきみじの会のメンバーについて伺ったところ、民生委員や福祉の会のメンバーが入っていらっしゃっていたので、地域福祉への貢献度では高い評価ができると思います。利用者の継続性や安心感、また、プログラムが盛りだくさんであることから、つきみじの会が優先順位 1 位の団体と見ています。

【委員】 つきみじの会のスタッフメンバーは、地域の中で活動されている方が多かったため、地域福祉への貢献度を最も高く評価しました。福祉の会、民生委員といった方がスタッフの中にいらっしゃるので、将来的にも安定感があると感じています。

【委員】 つきみじの会の代表者が施設にいる間は安心できますが、将来的な運営の持続性については不安視されるため、グループ撫子を推薦したいと思

ました。

【委員】 つきみじの会の安定性とグループ撫子の若さという争点となっておりますが、現在地域の中にグループ撫子のような年代がないということを考えますと、今後このようなグループが責任のある取組みをすることで、地域リーダー育成の観点からも担っていただく方が良いのではないかと思います。

【委員長】 地域ニーズを掴むということは本当に難しいことだと思います。つきみじの会もあまり掴めていないと感じましたし、日本アビリティーズ協会についてはほとんど掴んでいないと感じました。一方でグループ撫子は、実際に地域でアンケートを行うことで地域ニーズを掴む努力をし、月見路運営へ向けた「やる気」を十分に感じました。つきみじの会は今までの実績に甘えてしまった部分があるのではないかと思います。そのようなところから、これからの5年間はグループ撫子に期待ができるのではないかと感じました。

【委員長】 いただいたご意見の中では相違がある部分もございましたが、これまでのご意見を踏まえ、特に異論がなければグループ撫子を優先順位1位の団体として推薦したいと思いますがいかがでしょうか。

→ 全委員了承。

それでは、グループ撫子を優先順位1位、つきみじの会を2位の団体として市長へ推薦することとし、平成23年度第2回テンミリオンハウス事業採択・評価委員会を終了します。

4 閉会

以上